



滋賀銀行 常務取締役
西澤 由紀夫

一年の計

広義に言葉の由来があるようです。
また、管仲かんちゆうの著書と伝えられる漢代の「管子」には
一年之計。莫如樹穀。
十年之計。莫如樹木。

終身之計。莫如樹人。とあります。
即ち「1年後を目標とするなら穀物を植えよ、10年後を目指すなら木を植えよ、永久の繁栄を求めるなら人を育てよ」の意味だそうです。
いつの時代にも不変の真理はやはり「人材育成に尽きる」ようです。

あまりに高度な金融工学を偏重した反動とも言われる、2008年のリーマンショック以降、温もりが感じられ心の通う金融機関行動が改めて期待されるようになりました。

私が初めて支店長職を拝命した時、尊敬する先輩支店長から「支店長の一番大事な仕事は次世代の支店長を何人つくれるか」だと教えられました。「知恵と親切の提供」を言葉だけでなく行動として表わせる、そんな行員を育てていきたいと考えています。

新年明けましておめでとうございます。「一年の計は元旦にあり」。皆さまそれぞれに期待に胸を膨らませつつ、今年1年の構想を練っておられることと存じます。
この「一年の計は・・・」は中国・明代ひょうおうきやうに官僚・学者の馮應京が著した「月令

県内データ あれこれ

工業統計調査(2012年速報)より

製造品出荷額等の産業別トップは“輸送機械”

上位5業種で、全体の5割超を占める

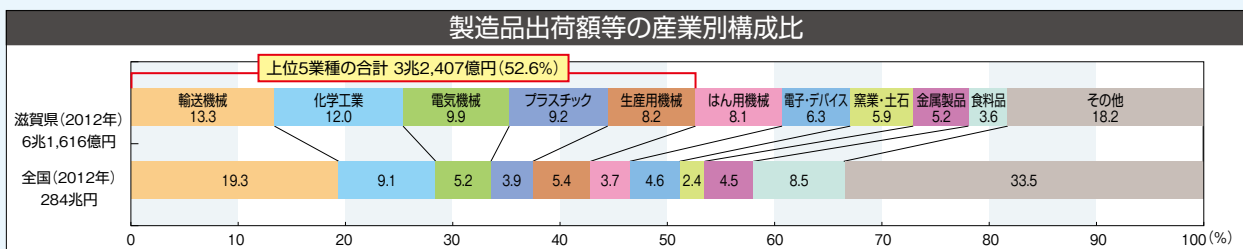
今回は、経済産業省の「工業統計調査(2012年速報)」から、県内製造業の「製造品出荷額等」*の構成比を産業別にみてみたい。
まず全国をみると、合計約284兆円のうち、トップは「輸送機械」だった。出荷額は約55兆円で、構成比は19.3%と全体の2割弱を占めた。以下、「化学工業」(同9.1%)、

「食料品」(同8.5%)などが続いた。
次に滋賀県内をみると、合計額は約6兆1,616億円で、全国の2.2%を占めた。このうちトップは、全国と同じ「輸送機械」となり、出荷額は約8,186億円で、構成比は13.3%だった。2番目も同じく「化学工業」(同12.0%)となったが、3番目は「電気機械」(同9.9%)が

続いた。また全24産業のうち、上位5産業の出荷額の合計は約3兆2,407億円で、全体の半数を超え、52.6%を占めた。過去5年間をみても、毎年ほぼ同じ産業が上位で推移しており、あまり大きな変化は見られない。

今年も引き続き上位産業が県内の出荷額をけん引するのか、または他産業の成長等により構成比が変わっていくのか、動向に注目したい。

(株)しがぎん経済文化センター 中村 雅臣



資料：経済産業省「工業統計調査(2012年速報)」(従業員4人以上の事業所) 注：グラフ内の数値は、四捨五入の関係で合計が100になりません
*製造品出荷額等…1年間の「製造品出荷額」、「加工費収入額」、「修理工収入額」、「製造工程から出たくず及び廃物」の出荷額と「その他の収入額」の合計で、消費税等の国内消費税を含んだ額